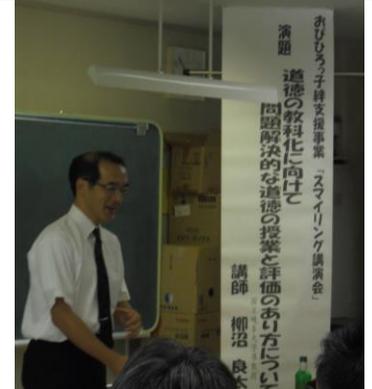


# けんしゅうしましよ

8月31日(水)に岐阜大学大学院の柳沼良太先生が来校され、「道徳の教科化に向けて問題解決的な道徳の授業と評価のあり方について」といった内容で講演をしていただきました。

子どもが主体的、能動的、協働的に学習するアクティブ・ラーニングの授業のあり方やその評価について、具体的なお話を聞くことができ、今後の授業や研修に大変参考になりました。



## 講演後のQ&A よい

### Q1 多面的・多角的とはどういうことか？

- ・方法論だが目的化されているところもある。せまい自己中心にならず様々な考えをもつといったプロセスにすることで目的にもなる。アクティブ・ラーニングも方法論であるが目的化している現状もある。
- ・多面的・多角的に考えることで深められるので、多様に物事を見ることが大切である。見方、考え方を変えるとたくさんの価値が出てくる。また、様々な人や生き物の立場で見ると考え方が変わってくる。
- ・様々な価値を考えることで、いろんな生き方につながる。ゴールは自分なりの価値を見つけることである。

### Q2 アンケート調査について

- ・児童の実態をつかむことができたり、様々なよさを見つけたりすることができるので行った方がよい。
- ・客観的なツールを通して、定期的に行うと児童の微妙な変容も見取ることができる。
- ・毎回行うと大変なので、重点項目や大きなまとまりで定期的に行うとよい。

### Q3 パフォーマンス評価・ポートフォリオ評価について

- ・パフォーマンス評価は多面的・多角的かが大切である。読み取りだけでは浅いので、人の考えを取り入れているなどの視点で評価するとよい。
- ・授業中書いたり発表したりしたもの、グループ学習の中で深まったことを評価することができるし、授業中発表できない児童はノートに書いたものを評価とすればよい。
- ・別の時間や場面でも評価できると思うが、道徳の授業の評価となるのはどうか…。道徳で学んだことが別の場面で生かされていれば、ポートフォリオ評価に入れてもよい。相性がいいのでセットとして使っていくとよい。

### Q4 評価基準の評価について

- ・観点別は○や×をつけがちになってしまうのであまりよくない。成長を評価していく。
- ・児童と教師の評価は違う。授業改良のよさがあるので、教師用ルーブリック活用していく。
- ・ヒントを促すための教師なりのルーブリックを作るとよい。

### Q5 特別支援の評価の仕方について

- ・特別支援の児童はそれぞれ特性が異なるので、その子なりのその子の特性に合った評価でよい。
- ・よいところを積極的に見取るようにするとよい。

### Q6 自立活動と道徳の評価内容について

- ・内容項目や観点に関連付けた評価をする。書き分けることが基本である。
- ・実践の場で生かしている様子は自立活動の評価となる。合同学習の様子や先生と話し合っている時の評価など、よさを認め評価していくようにする。